

会議録（要点筆記）

会議名	みやま市まち・ひと・しごと創生会議 令和2年度第1回会議
開催日時	令和2年8月26日（水） 午後1時30分～午後3時20分
開催場所	みやま市役所西館4階大会議室
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長挨拶 3 委嘱状交付 4 委員紹介 5 みやま市まち・ひと・しごと創生会議設置要綱について 6 会長・副会長の選出 7 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> ① 「みやま市人口ビジョン」及び「みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について (2) 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> ① 第1期みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略総括報告について ② 地方創生関連交付金の活用状況について ③ 事業計画書（令和2年度）について 8 次回の開催について 9 閉会
委員出席者	松藤 雄記、久富 大介、金子 寿、飯野 直美、内田 和実、 原口 唯、長 俊一、柴田 廣孝、岡部 晴信、草場 敏徳、 西原 千夏、大賀 茂功、大田黒 靖之、只隈 里織、森 弘子、 村上 義徳、上津原 博
欠席者	
事務局	木村企画振興課長、堤企画・地方創生係長、堤直之
傍聴者数	1名
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・みやま市まち・ひと・しごと創生会議委員名簿 ・みやま市まち・ひと・しごと創生会議設置要綱 ・資料1 第1期みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略総括報告 ・資料2 みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI 一覧表 ・資料3 地方創生関連交付金の活用状況について ・資料4 みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業計画書 (令和2年度作成版)

1. 開会

【事務局】

みなさん、こんにちは。本日は、お忙しい中にもかかわらず本会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。私はこの4月に企画振興課にまいりました課長の木村と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは予定の時刻となりましたので、ただ今から「みやま市まち・ひと・しごと・創生会議 令和2年度 第1回会議」を開催させていただきます。

なお、本日は、新型コロナウイルス感染症対策のため、会議の時間を長くても1時間半以内には終了したいと考えておりますので、どうぞご理解ご協力をお願いいたします。

それでは、皆様のお手元にお配りしております次第により進めさせていただきます。

2. 市長挨拶

【市長】

皆様、こんにちは。みやま市長の松嶋盛人でございます。本日は、お忙しい中、また大変暑い日が続いておりますが、「みやま市まち・ひと・しごと創生会議」にご出席いただき誠にありがとうございます。

さて、皆様ご承知のとおり、わが国の人口は2008年をピークに減少し続けております。昨年10月1日現在で1億2,616万7千人あった人口も40年度の2060年には9,284万人にまで落ち込むという予測であり、こうした状況は、地域経済社会にあらゆる面で悪影響を与えると大変危惧されております。そこで、こうした大きな課題に国と地方が一体となって向き合い、各地域が自律的で持続的な社会を創生することを目指して、平成26年に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されました。本市でも、平成27年度に「第1期みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、本日のこの「みやま市まち・ひと・しごと創生会議」において点検・検証いただきながら、実効性のある地方創生の取組みを推進してまいりました。そして、本年度は「第2期みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のスタートの年ということでございます。

本市が誕生して13年経ちますが、全国にたがわず人口は毎年減り続けており、6,000人以上減少しております。人口の減少は、地域経済の縮小を招き、地域活力の低下につながります。また、高齢化率の上昇は社会保障費の増加につながるなど、極めて大きな課題が生じてまいります。

ここにお集まりの皆様は、各界の専門家の方々でございます。皆様の英知をお借りしながら、本市の特性や地域資源を活かした取組みを進めてまいり所存でございますので、どうか忌憚のないご意見をお聞かせいただきますようお願いしまして、はなはだ簡単ではございますが、私のあいさつとさせてい

たきます。本日はどうもありがとうございます。

3. 委嘱状交付

＜市長より委嘱状交付。代表してみやま市商工会の松藤委員＞

4. 委員の紹介

＜名簿の順に自己紹介＞

【事務局】 昨年度は地方創生未来会議から委員を2名選出いただきました。今回はそのお二人が入っていませんが、未来会議で検討した内容については、第2期総合戦略の中に盛り込んでいくということになっていました。本年3月に第2期総合戦略が策定されましたので、今年度は未来会議からの委員は入っていないということになっております。今年度の未来会議については進め方を検討しております。

5. みやま市まち・ひと・しごと創生会議設置要綱について

【事務局】 みやま市まち・ひと・しごと創生会議設置要綱につきましては、4月1日付で改正をしております。委員の任期については1年間となっておりますが、毎年この総合戦略の内容を検証していくことになっておりますので、任期について2年に改正をさせていただきたいということで改正をしております。委員の任期は委嘱の日の属する年度の翌年度の末日としております。団体等で役員の任期が1年となっている場合は、これまでどおり後任の委員の任期は前任者の残任期間となっております。

6. 会長・副会長の選出

【事務局】 続きまして、次第の6「会長・副会長の選出」でございます。選出につきましては、事務局に腹案がございますので、そちらを提案させていただいてよろしいでしょうか

【委員】 異議なし

【事務局】 ありがとうございます。それでは、昨年度に引き続き会長に保健医療経営大学の内田委員、副会長に九州大学の原口委員をお願いしたいと思います。

【事務局】 これからの進行については会長をお願いします。

7. 議事

(1) 報告事項

①みやま市人口ビジョン及び第2期みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

【会 長】 事務局より説明をお願いします。

<事務局より、以下の説明>

「別冊」：みやま市人口ビジョン及び第2期みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略「概要版」

【会 長】 何か質問、意見ありましたらお願いします。

【松藤委員】 人口減少することによって、何が問題なのでしょうか。

【事務局】 人が少なくなってくれば、地域の経済活動というのは鈍くなってきますし、そういった意味で地域の活力が段々なくなっていく、経済的にも立ち行かなくなっていくことになるかと思えます。

【松藤委員】 人口が減少したとしても、市民一人当たりの GDP が増えれば問題ないと思っています。人口減少イコール経済の減速ではないと思っています。経済的な面で今の現役世代がいかに生産率を向上させて豊かにしていくかが重要で、人口減少そのものが悪いというのは違うと思います。

【西原委員】 総合戦略概要版の2ページの人口の推移を見て、年少人口と老年人口を合わせた人口はほぼ変わっていません。どこが一番減っているかという生産年齢人口が一番減っています。市に税金を納めて生産活動をする働いている人の人口が減っているから、これが人口減少の一番の問題ではないかと思えます。

(2) 協議事項

①第1期みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略総括報告

<事務局より、以下の説明>

「資料1、2」：第1期みやま市まち・ひと・しごと創生総合戦略総括報告について（基本目標1及び2）

【会 長】 何かご質問、ご意見ありましたらお願いします。

【委 員】 KPI 一覧表の基本目標4の「安全・安心で、持続可能な活力ある地域をつくる」について「みやま市が住みやすいと思う人」の割合が設定されていますが、H26 からずっと 80%は超えた数値

となっていますが、目標値が90%なので、進捗状況のKPI評価としては▲になってしまうということだとは思いますが、正直8割の人が住みやすいと感じているのであれば、そんなにネガティブに考えることもないのかなと思いましたが。逆に基本目標3の合計特殊出生率1.48は○となっていますが、これはみやま市だけではなく日本全体の問題だとは思いますが、人口が減ることというより、若い人が減って高齢者が増えていくと経済が回りづらいということになります。

質問ですが、基本目標2の交流人口についてですが、これは観光で来られる方が数字として挙がってくるのかなと思うのですが、具体的にどんな数値をもってきてこの現状値や目標値があるのか教えてください。

【事務局】 KPIの「交流人口」は観光入込客数の数値で各市町村で推計し、毎年1月から12月にみやま市を訪れた観光客の数値を集計したものになります。その中でみやま市では道の駅みやまや清水公園を訪れる人が多くなっており、第1期では残念ながら目標値には達成しませんでした。H26から比べると数値としては大変伸びた数値となっております。

【委員】 みやま市でいきなり定住人口を増やしていこうとすると難しいと思いますし、交流人口が伸びているということであれば、そういった観光をベースに来ていただいた人が、地域と深くかかわるようになって関係人口が増えていって、それがまた定住人口につながっていくというプロセスができれば、みやま市のような地方都市が人口減少をいかに抑えていくかということでもポジティブにとらえられると思います。

【会長】 交流人口をいかに定住人口に結びつけていくのかというご意見でした。指標の重要度についてですが、「住みたいと思う人の割合」とか対象者の主観で計算する指標となっています。KPIについては重要な指標もあれば、参考程度にするという指標と混在しています。そういう意味では第2期の指標を設定する場合は、改善につながるような指標あるいは進行状況を確認するような指標、またアウトカムだけではなくアウトプットの指標を細かく設定したりとかが重要だと思います。第1期総括には、各政策目標に具体的な施策の事業実績や成果・課題が記載されていますが、それがKPIと上手くリンクしていないものも見受けられます。第2期戦略を進めていく上での反省点といえます。

【委員】 市民として道の駅に日々買い物に行っている者としての意見ですが、品数も増えてきて、土日は福岡ナンバーとかの車も結構停まっています。一次産業のものも売れているのですが、加

工品も品数が増えてきています。しかし、地元以外の柳川市や他市の事業者の登録も増えているのだと思います。それだけ人が集まるといことは売れるということだから、その品ぞろえにより地元のものも増やして、地元のもの消費を増やしていくということを考えていった方がいいと思います。日持ちのする加工品があれば、地元産の加工品も売れるのではと思います。

【事務局】 道の駅は基本的に地元の野菜とかを置いているんですけど、地元の加工品が少ないです。総合戦略の一番最初に出てくる農業の6次産業化の推進というところで、地元ならではの加工品を作っていこうということで役所の中でも進めているところでございます。充実させていこうというところで。

② 地方創生関連交付金の活用状況について

＜事務局より、以下の説明＞

「資料3」：地方創生関連交付金の活用状況について

【会長】 行財政が厳しい中で、すべてを自己資金でというのは難しいですから国あるいは県の支援をいただきながら地方創生を進めていく必要があるかと思えます。

【委員】 福岡県の広域地域振興課で直接関わっているものと、P2の地方創生推進交付金の実績の中の「福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地を活用した筑後七国活性化協議会」は福岡県が窓口になっていまして、元々福岡ソフトバンクホークスファームが筑後に来たときに、せっかく立派な球場ができるし、試合があるときはたくさんの方が訪れますので、筑后市以外の他の市町も回ってもらえるような取り組みを作りたいということで、福岡県と七つの市町の人たちと一緒に事業を進めております。

今年度はどうしてもコロナの影響で試合の方も人数制限があっておるようでございますので、今年度についてはなかなか事業展開が厳しいですけど、来年度以降、ファームができて5年ということになりますので、5年の節目に合わせて事業展開をしていきたいと考えております。

地方創生推進交付金ですが、基本的には地方創生総合戦略の内容をいかにして実現していくのか、実現を支援するような国の交付金ですので、市単独でできるものであればそれはそれでいいんですが、交付金を使ってやっていこうというものがあれば、福岡県を通して国の方に相談していただければなと思えます。

【事務局】 P2 に地方創生拠点整備交付金ということでハード整備をしておりますけど、こういったものは市の単独予算ではなかなかできない部分ですので、この交付金がなければ出てこなかった発想だったかもしれないなと思っております。チャレンジショップは道の駅の中にありますし、バイオマスセンターはカフェをやったり視察者も多い状況でもありますので、KPI としては、まだ施設ができたばかりなので数字は上がっていませんが、効果はあったのではないかと感じているところです。今後もぜひこういったことを交付金が続く限りはなるべく活用をしていかないとと思っております。

【委員】 さきほどの KPI の進捗状況と交付金をいただいている事業の突合があった方がいいと思います。資料には“今後の展開”ということで質的な評価はあるんですけど、KPI として結果が出ていなければさらに注力していかなければならないとか、そういった評価があったほうがいいと思います。冒頭でいくと、道の駅みやまの“道の駅みやま売上額”も“道の駅みやま購入者数”もどちらも目標値を達成しているので◎とか。当然成果が出ていないものについては、地方創生推進交付金の手立て以外にも取り組みを検討していかないといけないと思いますので、KPI の評価を掲載したらいいかと思っております。

③ 事業計画書（令和 2 年度）について

＜事務局より、以下の説明＞

「資料 4」：事業計画書（令和 2 年度）について

【委員】 事業計画をみましたが、全体的なブランディングができていないような気がします。以前九州地方元気計画というのがあって、企業をプロデュースしてというか、ブランディングからモノの作り方・売り方を補助する制度がありました。すごく印象に残ってまして、みやま市がやっているのもそれぞれの担当部署がやっているの、タテ割り感を感じるなというところですね。全体的なブランディングができたらいいなと思いました。

【会長】 事業計画書はどうしても担当課ごとに作成いたしますので、どうしても縦割り感が否めないところはありますが、横につなげていくのが総合戦略の役割だと思いますので、今後の検討課題としていただければと思います。

【事務局】 バイオマスとかスマートエネルギーとか、循環型の部分でお互いしわ寄せがあるとは思いますが、バイオマスセンターの建物の中、旧山川南部小の校舎の中にエネルギーの関係の展示が

できるようスペースを設けたりするという話は聞いています。縦割り感が否めないところはあるかとは思いますが、そこを企画振興課の方で調整していかないといけないのかなと思います。

元気計画ですが、非常に印象的な取り組みだったので、みやま版の元気計画が取り組めないかということも担当課の中では検討されているようですので、そういったものが動き出せば面白いことができるのではないかと私たちも期待をしているところではございます。

【委員】 P8 のテレワークによる雇用機会の創出についてですが、テレワークについてはコロナ禍で期待したいところではありますが、テレワークなどの等新しい雇用機会の創出するための具体的な手段・方法は考えてあるのでしょうか。

【事務局】 こちらについては商工観光課が所管するようにはなっているんですが、バイオマスセンターの隣にある旧山川南部小学校にシェアオフィスが整備されていて、なかなかシェアオフィスでは今のコロナ禍の対応が難しい面もあるようですので、9月議会の補正予算の中でテレワークの設備まできちりできるかどうかはわかりませんが、遠隔での業務ができるようなスペースを作りたいというような話を聞いております。コロナが出る前から第1期の戦略の中にも入っていたんですが、コロナ禍ですごく注目されてやはり進めていかなかったといけないことなんだなと改めて思ったような感じですので、今後もっと検討していかないといけない分野なのかなと思っております。

【会長】 このP8のテレワークの書きぶりが不十分なように思いますので、検討をお願いします。

【事務局】 総合戦略を作成したときがまだ、コロナの影響がそれほどなかったときだったので、このような内容になっております。見直ししなければならない部分もこの項目以外にもあるかと思えます。

【委員】 さきほど事業計画の説明の中で、六次産業化の説明をされていたんですが、現状は若い農業者はあまり興味がないです。六次化の前に地元野菜のPR強化を考えた方がいいのではないかと思います。今瀬高で一番作られているのはなすびです。関東・関西に出荷されるときは“博多なす”として出荷されます。みやまとしてPRできていないのかなと思います。JAとか関係団体と協議は必要でしょうけど、みやまとして農産物をブランディング、糸島ブランドとかそのような感じで展開できればと思います。

【事務局】

これはずっと課題にしてきたことです。私たちも“博多なす”ではなくて“みやまなす”で出荷してほしいという思いはあるんですが、JAの仕組み上なかなかできないとのこと。昨年“博多なす”で出荷される段ボールにみやまという文字をプリントしてもらったことがあります。少しでもみやま産というのをPRしたくてJAにやってもらったということがありました。今年のどうなっているか分かりませんが、なかなか難しいところではありますが、やれるところはやっていきたいと思っていますし、みやま野菜のブランディングというのはシティプロモーションを展開していく中でも位置づけとしてはありますので、JAと市と連携してイベントで関西・関東方面に直接売りにいったりとかしています。良いアイデアがあれば農林水産課につないでいきたいと思っています。

【委員】

総合戦略の個別の取り組みに対するKPIの一致を取り組んでいただきたいなと思っております。私が全然納得していないのが、キャリア教育の結果が第1志望の高校の合格率になっているというものです。今回の事業計画もキャリア教育ということで地域学習の充実とかすばらしい施策が掲げられているんですが、その結果が中学2年生の後期に志望していた第1志望の高校に入ったかどうかというのは、疑問があります。そのような本質的にずれているのではないかとというKPIをもう一度是非見直していただきたいと思っています。

テレワークについてはこのコロナ禍で重要な施策だと思っておりまして、そういう意味で商工観光課のテレワークと農林水産課のグリーンツーリズムって、ワーケーションとかテレワークとかの分野で似たようなことに取り組むのではないかと思います。その時に別々のKPIを持ってしまうと農林水産課が頑張っていることと商工観光課が頑張っていることの成果が別々で小さく出てきてしまうので、どういう形のKPIでもいいんですけど、進めていかなければいけない方向にKPIを置いて、力を合わせて成果を出すというようなKPIの設定の仕方が必要かと思っています。もちろん、この分厚い事業計画を網羅的に見直すのは難しいとは思いますが、キャリア教育であったり、テレワークであったりあるいは農業のいくつかの分野であったり、本当に大事にしなければいけないことについては是非横断的にKPIを設定するというのもやっていたらいいかなと思います。

【会長】

貴重なご意見ありがとうございました。きめ細かなKPI、アウトプット、アウトカム両方組み合わせながら設定していただくと市民の方も事業者の方も、ここが進んでいないのだったらこうしたらよいということに繋がります。是非指標の見直しについて、できる範囲でやっていただけたらと思います。

【委員】 キャリア教育の部分で、若い人たちが転出したとしても戻ってきて地元で働きたいと思えるように、ポジティブに与えられるかが重要です。若い人たちの就職は親御さんとかの意向とかも影響してくるので、地元企業や農業へのポジティブに思ってもらえるような取り組みがあればいいのかなと思います。

【委員】 キャリア教育というところで、キャリア教育の KPI に第 1 志望の高校への進学率がなぜきているのかというと、中学 3 年生になっても将来こんなことがしたい、だからこんな高校に行きたいとかが定まらなくて、マッチングが上手くいかないことなどがあります。ここで考えられていることは、みやま市には小学校、中学校、高校があります。小と中が連携してるが、中と高には壁があります。ではその壁をなくしましょうと。中と高が連携するなかで、高校ってこうなんだ、僕はこんな仕事が見たいから工業高校に行こうとか、いや僕は商業高校に行こうとか、大学に行って勉強したいから普通科に行こうとか。そういうことが小・中・高上手く連携して生徒たちを支えていこう、その結果として今のところ KPI が第 1 志望の高校への進学率になっているのではないかと思います。マッチングしたという意味で KPI にされているのだと考えています。

中学生・高校生にみやま市の施策を出前授業など行っていただき、若い人たちをワクワクさせてほしいと思います。

【会長】 ほかにございませんか。それではこれで議事を終了したいと思います。

【事務局】 次回の創生会議につきましては、第 1 期総括の基本目標の 3 と 4 及び令和 2 年度事業計画の同じく基本目標 3 と 4 につきまして、ご意見をいただければと思います。併せて今日言い損ねたこととかがあればその時にお話しいただければと思います。

以上で、本日の会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

(午後 3 時 20 分 閉会)